



えだくぼ喜八郎の「街にうるおいとぬくもりを!!」

き・ず・な

No.1

for human community

発行：えだくぼ喜八郎
幸手市香日向2-9-10

Tel/Fax 0480-43-6797
e-mail : info@edakubo.net

幸手西消防署の廃止計画問題を考える!!



広域消防組合とは

幸手西消防署は幸手市が運営する消防署ではなく、東部消防組合という広域消防行政に属する消防署です。この広域消防行政は、埼玉県知事から2012. 8.29に埼玉東部消防組合としての設立許可証が交付されたことにより、近隣4市2町の消防組織が加入することで出来た、いわば消防を専門とする広域自治体です。したがって、議会も存在し、議員は加入6自治体からの選抜議員14名により構成されています。(加須・久喜は各3名、他は各2名)

埼玉東部消防組合	加須市：大橋良一市長	組合長	■設立	2013年4月1日
	久喜市：梅田修一市長	副組合長	■消防署	6署10分署2出張所
	白岡市：小島 卓市長	副組合長	■職員	650人(定数682人)
	幸手市：渡辺邦夫市長	副組合長	■管轄面積	320.54km ²
	杉戸町：古谷松雄町長	副組合長	■管内人口	456,808人(2018.4.1時点)
	宮代町：新井康之町長	副組合長	■年度予算	約64億円
			■幸手市負担金	9億2500万円(平成30年度)
			■救急出動数	21,722(幸手管内2,739)
			■消防出動数	165(幸手管内24)
			※救急・消防出動数は2018.1~12まで	

※組合長呼称はえだくぼが分かり易くしたもので、正しくは管理者です。

署所合理化案の経緯

東部消防組合は、総務省消防局の消防力整備指針に基づき、消防力適正化調査を消防科学センターに2度にわたり委託、その結果、18署所から14署所への方針が出されました。この調査の算出根拠は

①管内人口 ②世帯数 ③人口分布 ④道路状況 ⑤過去の災害データ 等

- 平成28年3月 消防力適正化計画の策定、変更、廃止は議会議決によるとの条例が可決
- 平成29年6月 消防力適正化計画が組合議会で説明される
- 平成30年10月 堂計画には更なる検討協議及び調整を要すると大橋組合長が発言

予定では2020年度に成案として議会上程されるとなっているが、廃止対象市町の動向から現時点においては流動的。また、統一地方選挙によって組合議会議員が変更となるので、ひとまず振り出しに戻ることも考えられます。

えだくぼの想い

3月初旬、白岡市の小島市長にお会いして、次のような話をうかがいました。曰く「幸手市さんではいろいろあるようですが、状況は何も進んでいませんよ」と。

私は、この消防組合議会議員に幸手市から2名の議席があるので、議員復活が成就した折には、自薦立候補をして、反対の立場で議会内の議論をしっかり進め、皆さんにお知らせしていくことを考えています。

Profile

生まれ 1950.2.22
学 歴 埼玉県立大宮高校
成蹊大学経済学部
職 歴 オンワード樫山(株)
株郵趣サービス社
(財)日本郵趣協会
政治歴 幸手市議2期8年
埼玉県議1期4年
座右銘 日々是精進
好言葉 思いやり、絆、調和
謙虚、至誠、奉仕
趣 味 スポーツ、エッセイ
書道、カラオケ、



2019.4.
討議資料

出発式のご案内

4月14日(日)午後2時より香日向2丁目中川崎公園にて
多くの皆さまでえだくぼを送り出させていただきますようお願い申し上げます。

特集!!

若者たちに学ぶ！

人口減少問題を考えるには、若い世代に目を向ける必要があります。

今まで社会を動かしてきた高齢者に代わる人たちが、今の社会、今の幸手市をどう感じているのか。幸手市在住の若い世代に聴いてみました。

そこには、街の現状をしっかりと捉え、問題点を感じている若者の姿がありました。

その息吹の一端をご紹介します。



免許証返納制度は高齢者にとって苦しい生活事情につながります。返納制度の目的は理解できても、それに代わる足をどれだけ補うことが出来るかが行政の力であり、やさしさだと思います。

財政の細かな部分はわかりませんが、駅を使う使わないにかかわらず、本当にあれだけの駅が今最優先で必要だったのかという疑問はわきます。財政に余力のない幸手市というのであれば、もう少し税金の使い方を慎重にし

幸手市は何かにつけてチャレンジ精神が薄いように感じます。改革や他を受け入れる思考に欠け、チェンジに対して消極的な感じがすると、の評価が仲間の間ではけっこう多くあります。

ウェルス幸手に子どもの遊戯スペースがあるのですが、あまりにも狭すぎて子どもにとっても、母親にとっても人間交流の場としては少し無理があるように思います。また来なくなるような場にする工夫が欲しいですね。

親の立場で言えば、人数の少ない小学校に入学させることに不安があります。実際、子どもをさいたま市や東京の小学校に通わせている友人がいます。地域のために小学校を残すのではなく、子どものために小学校を統合したり、小中一貫校制度を導入するなど考えるべきではないでしょうか。

保育園や幼稚園の施設が、高齢者の施設と同居している例があるそうです。高齢者福祉と子育ての相乗効果は、癒しにも子どもの成長にも効果が期待できます。幸手市にもそんな施設が出来たらいいと思うのですが難しいでしょうか。

私は三つの理由で枝久保さんを推薦します。

●一つ目は、若者の意見を取り入れようとする姿勢です。私が枝久保さんに会ったのは6年ほど前です。枝久保さんは、当時県会議員でしたが、偉そうな素振りはなく、フレンドリーでした。そして、私や友人の声に耳を傾けてくれました。年齢的にもベテランの域にある枝久保さんが、気軽に1対1で会ってくれるフランクさは、私にとっては驚きでした。ブログなどでも活動や考え方を頻繁に書き込み、その内容から信念と人柄が伝わります。とにかく、気さくで身近な人。それが枝久保さんです。

●二つ目は、実績こそが議員の資質を示す証拠だと思っております。枝久保さんは市議県議の時、幸手市内の道路や権現堂公園の整備を実現してきました。地域のことを一途に想う姿勢は、現在の幸手市政の問題点にも言及しています。今回の再挑戦への想いを応援しています。

●三つ目は、パフォーマンスより中身を大切にされる枝久保さんの人柄に納得できるからです。政治家として最も大切なことは、信念を曲げないこと。それは政治をよく知っているからこそ出来ることだと思います。こちらの話をしっかりと聞いてくれた後、口を開く枝久保さんは、政治に対する情熱を強く感じさせてくれますし、地域のことを思う純粋さは見習いたいと思っています。

□市議選は、同じ居住区の候補者に投票する傾向があります。それは、他の候補者との比較の上ならいいのですが、住む街の政治に問題視はしても期待はしないという真剣味の無い議員選出では街が良くなるわけがありません。持ち分の1票ではどうすることも出来ないという諦めに近い考え方ではなく、その1票に幸手市がより良い街になるという期待を抱いて投票に向かわなければならないと思います。選挙は市民の財産を積み上げるために行われる定期的な権利行使の機会だと思います。

若者に届いた情熱

二十代推薦人 江森 宏樹



『ほめ殺しの風評戦略に心を動かされることなく』

私について「間違いない」「かたい」「安心だ」といった評価が広がっています。それは選挙戦独特のほめ殺しという戦略です。数回前の市議選で、知名度の高い候補者に「トップ当選間違いない」という風評が広がった結果は、トップどころか落選というものでした。そんな風評戦略に惑わされることなく、皆さんの1票を投じていただきますようお願いいたします。

**自宅ガレージが
選挙事務所です！**

狭いですが、ほっこりスペースです。
お気軽にお立ち寄りください。

